

令和2年「北方領土の日」記念大会 記念講演

「海から考える北方領土問題」

講師 山田 吉彦 氏

(東海大学静岡キャンパス長[学長補佐]・海洋学部教授)

日時 令和2年2月1日(土) 14:30~15:40

1. はじめに

こんにちは、東海大学海洋学部の山田です。昨年の夏、大野市長が団長をされた北方領土ビザなし交流訪問団に団員として参加させていただき、今日のごことは、そのときに決まりました。「富山にも来てほしい」と言っていただき、その場で喜んでお受けし、やってきました。

富山県民会議では、5年ほど前にも、この場でお話しさせていただいています。実はビザなし交流に7回入っています。立場はいろいろで、最初は海洋安全保障の専門家として、あるいは領土問題の専門家、あるいは後継者育成のための指導者という形で入り、7回行ってきました。島出身の方とも、何人かご一緒に島に渡らせていただいたことがあります。私は2006年から島に渡るようになり、変化を随分見てきました。正直に言って、かなりまた厳しい状況に入っていると考えています。

富山は海に面しており、しかも「世界で最も美しい湾クラブ」にも加盟している、極めて美しい海を持っている県です。先々週、湾クラブの関係もあり、富山大学に呼ばれ、海を使った民間・県・学術研究者の交流の話し合いを行う場を持ちました。美しい湾、美しい海ということからいうと、私は20歳過ぎのときに知床に行きました。知床からすぐそこに、北方領土の国後島が見えるのですが、それは手の届かない島なのです。驚きました。本当に間近に、美しい海、美しい島が見えていました。なぜ、これが日本人の手から奪われ、なぜ、この島に日本人が行けないのか。

それどころではありません。昨年末から今年にかけて、本来日本人の海であるべき海域で何人もロシアに捕まり、多額の罰金を取られています。当たり前のように報道され、当たり前のようになっていますが、おかしい話です。本来なら、日本人の海なのです。特に富山には、多くの北方領土ご出身の方がいます。富山の方々の祖先、先人たちが開拓した海、漁場として整えてきた海、そこで漁をする日本人が捕まり、拿捕されるという現状になってしまっています。富山湾に出て行き、そこまで来ている北朝鮮に捕まるような話なのです。

今は皆さんのおかげで、富山の地にしっかりと人々が生きていますが、どうも都心の人たちはどこかずれてしまっています。私は年間365日のうち約150日、日本中を回っています。特に島や海沿いの地域に行っています。多くの地域は、人口が減ってきてしまった地域です。1票の格差と言いますが、同じ権利を持つというなら、この広い土地と、この広い海を守るために、皆さんがどれだけの労力を使っているか、もっと評価されるべきです。そもそも、1票の格差というのは人の数ではなく、土地の面積の広さではないかと思っています。面積割りして、そこを守るのに何人の国会議員がいるか、県議会議員がいるかというふうにしていかない限り、この国をっか

りと守ることはできません。そのような中で日本という国を見ていただきながら、海の話を進めていきたいと思えます。

2. 地政学的に見る日本の位置付け

ほとんどの富山の方がご覧いただいている「環日本海・東アジア諸国図」は、元々は富山を中心に見ると、このように見えるということです。我々安全保障の人間は、普段、もう少し広い地図を使うのですが、今日は富山の方に分かりやすいように、富山の発行した地図を使わせていただきます。



※この地図は富山県が作成した地図を転載したものである。(平 24 情使第 238 号)

日本列島をこのように見ると、アジアにおける位置付けが分かってきます。「地政学」という言葉があります。日本の土地の持つ力です。政治的力、外交的力、経済的力を合わせて地政学と言います。日本では、地政学が定着していません。というのは、日本で「土地が持つ力」という表現を使うと、誤解したがる人が多いからです。すぐに軍事的な話につなげてしまうのではなく、土地本来の持っている力が、どれだけ日本人に更なる力を与えているのかということをお話していきたいと思えます。

まず日本列島を横に置くと、ずっと広がっていきます。地図上には、ロシア、北朝鮮、韓国、中国があります。日本列島は、しっかりと東アジアの蓋になっているのです。

私は、尖閣諸島問題も研究しています。東京都の石原慎太郎が、尖閣諸島を東京都が買いますと言ったとき、私は東京都の専門委員の立場となり、尖閣諸島専門の部があり、尖閣諸島を買うプランを担当していました。あのプランの尖閣諸島を買う部分に関しては、私がプランを作っていました。

仮に、中国が尖閣諸島に強引に軍事侵攻した場合どうなるか。実は今、中国はそこまですることはできません。せいぜい、領海内に船を定期的を送り込み、あたかも中

国の主権が適用されているように見せかけているだけです。これは、すごい長期戦略です。中国という国は、自分の主張を 100 回言えばそれが通る。日本流にいうと、嘘も 100 回言えば通るという話ですが、自分の主張を通せばそれが事実になっていくのではないかと、永遠に尖閣諸島は日本のものではないと言い続けます。

ロシアも同じようなことをしています。北方領土はロシアのものだ、第二次世界大戦の結果獲得した土地だと、この数年間それを言い続けて、あたかもそれが事実のように宣伝されてしまっています。本来、そのようなことはありません。戦争が終わってから、ロシアはやってきました。武力解放されてから、しかも、戦うなどと言われてからやってきたのです。彼らの主張というのは、言い続けることによってそれを変えてしまうのです。

ただ、尖閣諸島の場合、中国が頻繁にやってきて、頻繁に領海まで船を送り込んでいますが、なかなかそれ以上できないのは、この土地の持つ力です。

中国は今、貿易大国です。貿易なくして生きていけない国なのです。中国がどうして成り立っているかという、安い労働力です。13~14 億人と言われる人口の中で、富裕層は 1 億人です。実は上海の町だけで、賃金をもらっていない労働者が 1 億人いと言われています。中国は、農村戸籍と都市戸籍に分かれています。農村に住む人間は、一生農村に住まなくてははいけません。しかし中国は、それでは生きていけないような国になってしまい、農村から逃げてきます。

あるいは、中国はずっと一人っ子政策を取っていました。戸籍のない子どもたちが、大勢いるのです。存在が認められていない人たちが、上海でただで働いています。ただの労働力、あるいは農村部の安い労働力を使って安いものをたくさん造り、外に売っています。中国は、既にエネルギーも買わなくてははいけない国になっています。石油を買わなければ、中国は成り立ちません。

中国にとって一番の貿易相手、一番物を買ってくれている国はどこかという、実はアメリカです。だから、トランプの中国に対する経済制裁は、中国を追い詰めているのです。

中国を出た船が、どのようにしてアメリカまで行くかという、北京から出て、大連、青島と船は東シナ海を目指して対馬海峡を通り、津軽海峡を通り、アメリカまで行っているのです。皆さんの目の前を通っているのです。冬場、日本海が荒れるときはどうしているかという、鹿児島の大隈海峡を通り、黒潮に乗った形でアメリカに行っています。

中国にとって日本の海域というのは、非常に重要なのです。本来、中国は日本と仲良くせざるを得ない関係にあります。ただし、日本は非常に優しく、非常に中国のことを慮った外交戦略を取るために、若干中国が勘違いして、強気に出てくるのです。

中国が今以上のことをできないというのは、例えば、中国が尖閣諸島に軍事侵攻し、上陸した場合どうなるかという、日本と中国が紛争状態になります。日本は、この海域を通さなければいいのです。津軽海峡を通れないようにすればいいのです。実は、対馬海峡も津軽海峡も大隈海峡も、真ん中を公海としています。どこの国の船も通ることができますが、それをコントロールすることはできるのです。自衛隊もしっかりと管理しています。海上保安庁も警備しています。中国がこれ以上のことをしようとした場合、日本の海域を通れなくなる可能性があります。だから今、中国はす

ごい長期計画に立って、尖閣諸島が中国のものだというイメージ戦略を進めているわけです。

日本という国は、北は択捉島、南は沖ノ鳥島まで、実に3,000kmあります。東は南鳥島、西は与那国島まで、これも3,000kmあります。日本という国はなぜか、この四隅になかなか行けません。北方領土に行くためには、ビザなし交流という枠に入らなければいけないのです。これは年間600人に限られています。元島民の方、そのご親族・後継者の方、そして北方領土返還運動に携わる我々のような者、メディアの人間、国会議員などで600人です。恐らくそのうちの約3分の1から半分ぐらいはリピーターで、何度か行かれる方ということになると、北方領土に行く機会はなかなかありません。

ちなみに沖ノ鳥島は、この演台ぐらいの小さな島で、しかも東京から1,700kmも離れている離島ですから、なかなか人が行くことはできません。もちろん、定期航路などありません。一番東の南鳥島は、海上自衛隊、気象庁だけが常駐しています。今は港を造っている関係で、国土交通省と建設関係の方がいます。与那国島は、一般の方も行ける唯一の四隅の島になっています。

実は、この四隅の島全部に行ったことのある日本人というのは、恐らく今は二人しかいません。私と、カメラマンの山本皓一さんです。よく「沖ノ鳥島に行ったことがある」と言う人がいるのですが、これは見たことがある人で、コンクリートに囲まれた中まで入らなくてはいけないので、なかなか行く機会はありません。ちなみに南鳥島に行っている方々は、自衛隊と気象庁の方なので、北方領土にはなかなか入ることができません。現職の自衛官は、決して入れてくれません。ということは、北方領土に行くことができるのは、退職後の一部の方々に限られてしまうという理由もあります。

3. 停滞した北方領土問題

今、北方領土問題がなぜか止まってしまった原因というのは、実は日本海にあります。2016年、安倍さんとプーチンは非常にうまくいっているように思えました。プーチンが山口まで行き、二人で話し、あたかも北方領土問題が進むように国民は錯覚を起こしました。でも、今は全く止まってしまいました。その原因は、実は日本海にあるのです。北朝鮮にあるのです。

北朝鮮がミサイルを頻繁に撃つようになりました。日本海には、アメリカ、ロシア、日本、韓国の潜水艦がウロウロしています。常に潜水艦が動いています。数年前、アメリカのトランプ大統領が金正恩暗殺指令を出したという噂が流れました。このとき、なぜそういう噂が流れたかということ、実は日本海にアメリカの戦略的原子力潜水艦ミシガンが潜っていました。ミシガンは通常、トマホークを150~160発積めるのですが、そのときは90発しか積んでいませんでした。空いた空間にアメリカ海軍シールズ（特殊部隊）を60人ほど乗せていたのです。シールズが60人いたら、恐らく金正恩の首が取れます。世界最強の部隊が乗っていたのです。当然、上陸用舟艇も乗せていました。

潜水艦は今、世界で最強の武器です。よく宇宙からの攻撃とありますが、宇宙からの攻撃は探知できます。潜水艦は海の底に隠れていて、突然、浮上して撃ち込めますから、なかなか把握することができません。ちなみに、東シナ海もそうです。日

てきました。昨年色丹島に行ったとき、国境警備庁に置かれている警備船は、今までより遥かにレベルの高いものでした。そして、海上保安庁が確認しているより最新鋭のものでした。どれぐらいの能力で、ロシアが色丹島を守っているかという、常時配備している巡視艇が4隻、沖に展開しているのが5隻の9隻です。そして1,000人の国境警備庁です。

日本の海上保安庁が一番力を入れているのは、尖閣諸島です。第十一管区海上保安本部石垣保安部尖閣諸島専従部隊と言います。これは10隻の巡視船で12隻態勢という、10隻分のクルーが用意されて600人です。600人といっても、欠員が100人で500人です。日本でいうと、尖閣を守る最大の海上警備能力をもって、ロシアは北方海域を守っているのです。

4. 北朝鮮問題

皆さんも気になるところで、北朝鮮の漁船200隻以上が、日本に、富山近海まで流れ着いています。中には死体が入っている、あるいは生きてそのまま流れ着くこともあります。富山側の能登町には、不思議なことに長さ約5mの平底舟が傷もなく流れ着いています。地元の漁師によると、この入り江は通常、漂流船や漂流物が流れ着くようなことのない場所なのです。漁師さんは「その辺から漕いでこない限り、絶対に着きません」と言うのですが、この船に乗っていた人はいないのです。

北朝鮮問題は、今も動いています。一時期、韓国と北朝鮮がうまく行っているような、南北融和と言っていました。文在寅が希望したのは中国を中心とした融和策でした。それに対して当初、金正恩は乗っていたのですが、プーチンにウラジオストクに呼び出され、常に中国とロシアの均衡を保てと恫喝されて、振り出しに戻ったのです。悲しいことに、朝鮮半島は常に緊張があることが、中国とロシア、そしてアメリカの中での平和の維持につながっているのです。今までの歴史で、それが繰り返されてきています。

私は仕事柄、海の事件・事故の映像を、ほとんどのテレビ局から全て見せてもらいます。その中で見たのが、北朝鮮から漂流して青森に流れ着いた漁船の中の革靴でした。なぜか踵が高い24cmの男性用の革靴でした。同じ船から、青いジャケットが出てきました。北朝鮮の漁師が革靴を履き、青いジャケットを着て漁をするなどということはありません。ということは、船が漂着した後に革靴を履き替え、青いジャケットを着ていた人が乗っていたということです。

私は、数多くの漂着船を見てきました。現場もかなり回ってきました。多くの船で、エンジンルームが居住空間に改造されているケースがあります。二つパターンがあり、一つは本当の漁船、エンジンのない漁船が母船に引っ張られてきて、日本海の大和堆あたりで漁をします。すごい展開をします。1,000隻ぐらいで展開しているのです。網をどんどん投げる流し網漁です。だから、富山の漁師さんも、石川の漁師さんも、山形の漁師さんも大和堆に行けなくなってしまうのです。行けばスクリーンに北朝鮮の網がかかってしまうからです。

もっと怖いことに、日本ではあまり報道されませんが、その脇には中国の漁船団が1,000隻入っています。なぜ、それほど数が入っているかということ、北朝鮮にもしものことがあったときに、日本海の羅津や清津という北朝鮮の港に、中国の漁船団がなだれ込みます。押さえてしまうのです。ロシアが先か、中国が先かです。もし中国

が先に入ったときは、日本海側に中国の港ができてしまいます。北朝鮮が何をしているのか、まだまだ不安なところはありますが、富山の問題にもなりかねません。

今、海上保安庁にかなり厳しくお願いしています。水産庁の取締船では機能しきれないので、まだ公表されていませんが、近い将来、水産庁の警備船の中にも海上保安官が乗り込んで、警察権を持って行動することになります。そして、少し数を増やしながら警備を強化していくという指示が出ていますので、違法操業の実態が確認できた船は、拿捕していく態勢になってくると思います。日本海側で動く漁師の方々の安全を少しでも確保し、漁場を確保する戦略を取っていかなければいけないということで、政府が動いています。

5. 北方四島における共同経済活動

北方領土問題に戻りますと、色丹島の基地は常に国後水道を監視しています。そのような中で、北方領土問題が非常に進みにくい状況になっています。そこで安倍政権が今、外務省をはじめとしてやっているのが、北方四島における共同経済活動です。

昨年初めて、小手先過ぎる感はありますが、観光旅行を実験的にやってみました。共同経済活動というのは、日本とロシアが共同して水産養殖を行おう、温室栽培を行おう、観光をしていこう、風力発電をしていこう、ゴミの少量化をしていこうと、経済的意義あるプロジェクトを形成し、法的基盤の諸問題の検討を進めていくということで、恐らく経済特区のような形で融和した空間になっていきます。

ロシアにとって、北方四島というのは日本に対する数少ないカードの一つです。常に日本に対するカードであり、返還というところまではなかなか切れません。ちなみに、二島返還と言っている方がいらっしゃいますが、今、二島返還すると、もれなく色丹島の基地がついてきます。プーチンは「アメリカと日米安全保障条約を結び、アメリカの基地を認めているならば、ロシアと平和条約を締結した暁には、現状でいいのではないか」と言っています。北方領土に、北海道にロシアの基地が残ってしまうことになります。先ほど説明してきたように、安全保障上、ロシアは絶対に（色丹島から基地を）離せないのです。

そうなってくると詰まってしまうので、何とかして前進させなくてはならないというのが、この共同経済活動です。この共同経済活動では、外務省にも少しずるい部分があって、簡単にできてしまう話なのです。北方四島全部で人口は1万7,000人です。対岸の根室は3万人弱です。

水産養殖は、元々日本側でやっていたウニの養殖を、北方領土側に持っていくだけです。しかも、これを買うのは日本人です。

温室栽培は、イチゴとトマトをやろうという計画を検討しています。1万7,000人が食べるイチゴとトマトは、富山の農家ならおそらく10軒いりません。5軒もあれば作ってしまう数です。

観光も、冬の北方領土に行きたいですか。暗いですよ。日が短く、風は吹きすさび、冬が終わると、すぐに霧の深い季節がやってきます。北方領土を観光できるとしたら、6月中旬あるいは7月から10月までです。そうなってくると、投資してホテルなど造れないのです。どうなるかという、根室から、あるいは北海道の近い場所から国後島に渡る、あるいは飛行機で行く。かなり制限された部分になってしまいます。これも去年やったように、やろうと思えばすぐにでもできる話です。

そして風力発電とゴミの少量化。ゴミの少量化は、昨年大野団長のもと、私どもが北方領土に行ったとき、帰りの船にロシア側の専門家も乗っていました。視察のために人が乗っていたのです。北方領土の多くは、いまだに野焼きです。ゴミを集めて野焼き、しかも島なので、たっぷりと塩分・海水がしみ込んでいるので、ダイオキシンが出るのです。日本側の収集手法、日本側の焼却で、1万7,000人ぐらいの人口のゴミを燃やすことは、日本のいろいろな島、いろいろな地域でできています。これを持っていくのは、それほど難しい話ではありません。

できれば、どんどん共同経済活動をしてしまい、多くの日本人が北方四島に入れる環境を作っていく、日本人のお金が北方領土を制圧してしまうことです。

これに近いことが、対馬で起こりそうでした。対馬に韓国人の観光客がどんどんやってきて、どんどんお金を落とすとしていき、日本人は過疎でどんどん減っていき、あたかも韓国に占領されそうになりました。韓国経済が進入してきました。

私は対馬も研究フィールドなので、年に1~2回必ず行くのですが、ホテルに泊まると韓国の方々は賑やかです。できれば、韓国の方々があまり泊まらないホテルに泊まろうと思って、西山寺という宿坊に泊まりました。安倍昭恵さんをご案内したときも、この宿坊に泊まっていたのですが、そこのお坊さんは、末寺で仏像を盗まれたお寺だったので、韓国人が大嫌いだったのですが、行って見て驚きました。朝起きて、食事をしに行くと、4組のお客さんがいて、日本人は私一人でした。もうネット社会なので、インターネットで申し込んでくるのです。今まで「韓国はノー」と言っていた人たちも、みんな韓国を受け入れていたのです。今は反日の機運になって、急速に韓国人は来なくなりました。今、対馬は日本型の経済の建て直しを進めています。

反対の意味で、北方領土にどんどん日本の資金を導入して、日本なくしてはゴミ処理もできない、電力も足りなくなる、物を日本に買ってもらうなければ生きていけない場所にしてしまうのです。

先ほど、択捉島をギドロストロイ帝国と言いました。ギドロストロイという企業が仕切っている王国のようなところ。ギドロストロイは、水産加工をしています。サケのフィレや缶詰を造っています。東海大学の水産研究者を島に行かせたところ、衛生管理ができていないので、これでは日本で商売にならない、売れないと言われました。ギドロストロイは、造ったものをロシア本土やアメリカに売っています。輸送コストもかかるのです。どうしたら一番いいかというと、日本の企業と技術提携して日本に買ってもらうこと。それがギドロストロイにとってベストです。衛生管理もできます。

北方領土周辺のサケは、日本のサケと同じものです。そして賃金は5分の1。安くてもいいものを造らせ、それを日本が買ってあげる。日本人の協力なくしては、ギドロストロイもやっていけないぐらいの環境を作ってしまう。それが北方領土返還の道筋につながるのではないかと考えています。甘い考えかもしれませんが、でも、しないよりした方がいいでしょう。

よく「そんなことをしても、日本人の知恵やお金が丸々持っていかれるではないか」と言われますが、それほど大きな話ではありません。富山でも、私のいる静岡でもやっているハウス栽培を持っていくだけです。あるいは観光も、マイクロバスを持っていくだけです。それでも北方四島であれば、我々になびく可能性が高いのです。

ただ、今の国後島の様子を見ていると、非常に巧妙な戦略が立てられています。特に国後島には、若い人が多いのです。これはロシアの戦略です。国後島には今、新しい幼稚園、小学校がたくさんできて、若い人がどんどん送り込まれているのです。北方四島の給料は、一般の方でロシア本土の1.8倍、2倍近いのです。公務員でも1.4倍で、それに住宅もついてきます。若い方が北方領土に移住しようとする、5年間定住するという条件で、日本円で約200万円のお金が支給されます。夫婦で行けば400万円です。人件費は約5分の1程度なので、要するに約2,000万円のお金を貰った感覚です。高給で、給料も倍です。

日本では、富山の若い人たちが東京や名古屋などに行く感覚になりますが、ロシアには、都会などめったにないわけです。ウラジオストクもそんなに大都会ではありません。例えば、シベリアの町にいる人が北方四島に行っても、町としては大して変わらないのです。それなら、給料の高い方がいいでしょう。しかも子育て空間を整えているのです。夫婦で行き、子どもを育てる。元々社会主義の国なので、それだけは整えてあります。そこで、しっかり子育てする。ただ、国後島には原則として、日本でいう高校までしかないのです。子育てが終わったら、一家は貯めたお金を持って島を出て行くのです。よく「北方領土に三代続けて住んでいるから、その人たちがかわいそうではないか」とおっしゃる方がいます。それは何軒ですか、何人ぐらいいると思っていますかという話です。

国後島には、きれいなロシア正教の教会があります。今、国後島は人口8,000人近い島ですが、大きい教会はその一つしかなく、後は礼拝堂が1ヶ所あるだけです。信者は70人います。8,000人の島で70人です。私の田舎の神社でも、70人の氏子ではやっていけません。70人の檀家さんでやっていくのは大変です。しかも、これはかなり吹っかけて70人で、前に聞いたときは40人と言っていました。

教会というのはコミュニティです。コミュニティに顔を出すのは70人。かつて神父さんと話をしたときに、「この島の人たちは島に責任など持っていません」と言っていました。要するにお金のため、暮らすために来ているのです。そこにたまたま、子どもを育てるしっかりした環境があるから来ているのですが、出て行きたいのです。

何代も暮らしているのは、多く見積もっても70人です。しかも、その人たちの多くは、ビザなし交流で頻繁に日本に来ているのです。国後島で、高齢の女性と話をしました。もう何度も日本に来ています。日本に行って何をしているのかと聞くと、健康診断をしてもらっているということです。この前はがんの検診をしたと言っていました。実は、北方四島の人たちは、既に日本なくして生きられなくなり始めているのです。健康管理は日本が行っています。しかも、大きなけがをしたとき、大きな病気になったときは日本に運びます。命を預かってしまうのが一番です。

ベトナムという国は最近、非常に親日です。なぜベトナムが親日なのかというと、理由があります。元々共産圏で、ベトナム共産党は中国共産党より強烈な一党支配です。それでも日本を向いているのは、ベトナム共産党の幹部はみんな、日本で研修を受けているからです。これは安倍政権になってから始まったのですが、ベトナムの共産党の幹部は、病気になるとみんな日本で健康診断を受け、順天堂大学の特別室に入ります。

日本はベトナム政府の命をしっかり握っていて、健康診断も全てやっています。共

産圏は、健康に問題があると中枢から外されてしまうので、みんな秘密裏に日本に来て治療し、健康診断も常時日本でやっています。

同じように、そこまで大きな話ではありませんが、北方領土で暮らすロシア系の人たちの健康を、全て日本が握ってしまうのです。そして日本との交流の中で、北方四島にいるロシア人は日本なくしては生きていけない環境を作ってしまうことが、私は一番ではないかと考えています。

そのような意味でいうと、共同経済活動の観光が定着すれば、いずれ多くの方が行ける環境になる可能性があります。あとは水産養殖です。ウニの食べ方が分かっていないのです。塩漬けのウニを出してもらったのですが、すごく塩辛くて食べられないぐらいでした。もっと商品価値のあるものを伝えていくことが、必要だと思います。その中で本格的な経済交流、これが一番北方領土返還に近づく方法ではないかと感じています。何もしなければ、どんどん遠のいてしまいます。一番怖いのは、日本人が北方領土を忘れてしまうことです。

6. 主権とは何か

今年の4月から、政府の学習指導要領で領土主権の教育を行います。教科書に明記するように決められました。昨年11月、内閣官房は各都道府県の教育関係の方を県庁からお呼びして、どのような形で領土教育、主権教育をしていくかという話をしました。私は、その講師になりました。

よく北方領土問題を語るときに、「主権だから」、「国家の主権だから」と言いますが、国家の主権とは何でしょうか。感覚的には分かっても、どのような意味があるのか、多くの方は分かっているようで分かっていません。

国家の主権とは、領土、領域を他国の干渉を受けずに治める権利です。ただし、主権というのは違う意味で、その国家を最終的に決める権利です。日本の場合は国民です。主権というのは、国民を守る権利なのです。日本国民を守る権利のために、北方領土を取り戻さなければいけないのです。

というのは、我々が努力した土地、島が、開拓してもいつ奪われるか分からないのでは、土地を維持することも、島を維持することもできません。北方領土問題を、国際法に基づいてきちんと解決するという事実がない限り、特に奪われているという現状を打破していかない限り、国民の安全は守れないのです。国民に夢を見つけると言えないのです。

沖縄もそうです。しっかりと島を守っていても、その島を奪われるようなことでは、島で暮らせません。国家が領土問題に前向きに取り組み、我々は我々の土地で、しっかりと生きていく。そういう環境を作っていくことこそが重要だと考えています。

先ほどの中学生の作文にもありましたが、自分たちの環境に置き換えてみると、我々の土地、我々の社会は、国家に守ってもらわなければいけないのです。急に、別の国から多くの人たちが来て暮らし始め、コミュニティを奪われるようなことになってはいけません。そのような面も含めて、北方領土問題を解決していくことは主権の問題、言い換えると日本国民が安全に暮らしていく、これから先も安全に暮らしていくために必要なことであると考えています。これができる国かできない国か、北方領土問題を解決することができるかできないかということは、これから先、日本のあ

り方にとっても非常に重要なケースになってくると思います。

ただし、私は国境問題もやっていますが、いつまでこの国境という世界が今の形であるかというのは、別の話になってきます。グローバル化が進む、IT化が進む、情報化が進む中で、国境というのはどういう存在なのかというのは、これから先変わっていく可能性があります。グラデーションがかかっていく可能性もあります。ただし、この国境線、境界線で、多くの人々が暮らしていかなければいけないのです。そして、それを守ってくれるのは一つには国家であり、一つには我々日本人のコミュニティであり、そして日本の文化であると考えています。

7. 北極海航路による新たな展開

今、北方領土問題の新たな展開の中に、北極海航路が生まれています。ヨーロッパとアジアを結ぶ新しい海の道です。

地球温暖化の影響で、北極海の氷が解けています。7～11月まで船が通ることができます。例えば、横浜とハンブルク、アジアとヨーロッパを結んだときに、今中心になっているのはスエズ運河で、1万1,000海里です。北極海航路は6,900海里、3分の2で済むのです。お金も時間も3分の2です。そうすると当然、夏の間はできるだけ北極海航路を通過したいということになり、実際すでに使われています。

商船三井はLNGのタンカーを造りました。3隻造ってあります。ロシアのヤマルというガス田基地から天然ガスを積み、いったん中国に運んでいます。北極海を通っていて、商業航路としても使われています。

ただし、日本はこれを使っていません。というのは、北極海航路はロシアが警備船をつけなければいけないなど、いくつかのルールを作っていて、多額のお金を要求しているためです。ノルウェーと日本を結んだ場合、北極海航路は1トン当たり52ドルの経費がかかります。日本が一番LNGを輸送しているオーストラリアからなら27ドルです。中東カタールからでも48ドルです。要するに、高いから日本人は使っていないのです。

今、プーチンはヤマルから、日本がより多くの天然ガスを買うように、そしてその生産に日本が協力するようという要求をしています。また、ロシア側は経済協力の8項目として、健康寿命の伸長、快適・清潔で住みやすく活動しやすい都市づくり、中小企業交流・協力の抜本的拡大、エネルギー、ロシアの産業多様化・生産性向上、極東の産業振興・輸出基地化、先端技術協力、人的交流の抜本的拡大ということを要求しています。当たり前の話ばかりですが、ロシアはできていないのです。

ロシアにとって、日本が手を貸すことはいくらでもあります。その中で、ロシアの日本化を進めていくことは一つの手法ではないかと思っています。ただし、安全保障の世界に入ってくると、壁が大きいです。

8. 将来の富山

最後に富山の話をしてみると、富山には皆さんご存じのようにメタンハイドレートがあります。将来的には、ここも開拓していくことになると思います。

また、今年は雪が少ないですが、富山に雪が少ない年は、太平洋側に地震や津波がありません。東南海地震の過去のデータを全部調べると、冬にしか起こりません。地誌学者に話を聞いたら、雪なのです。日本海側に降る雪が積もるために、ほんの数ミ

リプレートが傾くのです。それが東南海地震の原因になっているのです。したがって、東南海地震の過去のデータは、冬にしかないのです。皆さんが少し不安な雪の問題は、実は今年、日本人は安心して暮らしていいというシグナルでもあるわけです。

一つ気になるのは、黒潮の対馬海流です。この流れが非常に強いのです。非常に温かいのです。水温が2~3℃高くなってしまいます。

この海流は、富山湾の魚に大きい影響を与えます。この海流の度合によっては、ブリが富山湾で止まってしまう可能性があります。この海流がもう少し強くなると、富山湾にも入ってきませんし、サケ・マスに影響を与えてしまいます。また、ズワイガニというのは、オスとメスの生息域が若干違い、水温が違います。その差が激しくなってしまうと交尾しなくなり、稚魚が産まれなくなってしまいます。もうこれは始まってしまっています。

これから先、水温の変化によって、生態系が変わってくる影響は非常に可能性が高く、そのとき、どうしていくかということです。まず、水温を見極めていくこと、そして漁業シフトしていくことも必要になってくると思います。私の予想では、むしろブリはいいです。独占的になってきます。その先の方の港には、魚が行かなくなってくる可能性があります。その中で、ひょっとするとイカの動きにも変化が出てしまう可能性があります。

また、水温が高いと低気圧が起こりやすく、台風が日本海を通過しやすくなってくるので、夏の間の準備を怠ることができなくなってきました。その分、暖かいために農作物にはプラスになる可能性も高いと考えています。

そのような中で富山は、今から自然環境のことも見続けていかなければいけないということと、日本海には中国の漁船団も入っていて、漁業はかなり厳しくなっています。となると政府には、強い声で「日本海を守っていこう」と訴えなければなりません。日本海側の人が少ないということとは、大量の人たちが、半島から日本海を越えてくる可能性もあります。歴史的にもそうでした。日本海側をしっかり守っていく、その中心に富山が考えられます。

先ほどの北極海航路のところでは言い忘れましたが、北極海航路の拠点、北方領土周辺というのも十分考えられます。そしてロシアは、北極海を通過してウラジオストクに多くの荷物を集めてくるのです。北極海航路は、常にロシアが中心になります。ロシアは、アジア中の荷物をウラジオストクに集め、今度は横に来るのです。大きな船でウラジオストクに運んだ荷物を、小口に分けて日本海の港に運んできます。関東圏や関西につながるやすい港、新潟、富山、石川あたりの港の規模が拡大してくることは、十分考えられると思っています。日本海の海上交通は、反面、活性化してくると思っています。

富山は、冒頭の地図にもあったように、世界を見ていく場所だと思っています。何よりも富山の方々、北方領土にも関心を向けていただいています。北方領土に関心があるということは、日本の主権、日本国民の幸せに、最も関心を持っている県であると感じています。

何より驚いたのは、冒頭の3人の中学生の作文発表です。私は毎年4県ぐらい聞くのですけれど、去年、このようにいい発表はありませんでした。3人とも素晴らしく、やはり、実体験に即した方が身近にいることは、すごいプラスなのだと思います。中学生のものの考え方がしっかりしていて、驚きました。

この驚いた感動をもとに、これから私は3県回ります。富山の方々の前向きな姿勢を、しっかり伝えていきたいと思います。ご清聴ありがとうございました(拍手)。

<質疑応答>

(山田) ビラ配りをしていて、受け取っていただくというのは、北方領土のビラを配る身になると、うれしいですね。そこから話を展開していただけるというのは、本当にうれしいことです。私たちも行動していながら、ときどき東京では悲しいときもあります。北方領土問題を言うだけで、変わった目で見られるようなことであってはいけないのです。ビラ配りからでも展開していくという、本当に感動するいい話、うれしい話、新鮮な話をお聞きすることができ、それだけでも来た甲斐があったと感じています。

富山の方が、本当に北方領土問題の中核であると思っています。北海道の方も多いのですが、北海道はそれ以上に関係ない人が多いので、富山の方々の活動が、日本のスタンダードになっていただけたらと思っています。

また、富山は美しい海をお持ちです。私も当面、「世界で最も美しい湾クラブ」の関係もあって、富山に通おうと思っているので、その辺で見かけたらお気軽にお声掛けください。今日は北方領土の話ばかりでしたが、安全保障の話、あるいは経済の話をお伝えすることもできると思います。ご質問、よろしいでしょうか。

(Q1) ご講演ありがとうございました。近年中に起きそうな安全保障の動きを、先生の見解で教えていただければと思います。

(山田) 安全保障で一番怖いのはペルシャ湾です。恐らくもう第三次世界大戦が始まっています。ただ、日本にどれほどの影響が来るかという点と別です。石油からのシフトは進み、その分が天然ガスになっていきます。その意味でいうと、富山湾のメタンハイドレートはこれから粛々と、大きくはなく粛々と研究が進んでいきます。

ペルシャ湾の問題は、かなり深刻になっています。これには経済的な話もあります。数回の戦闘等で、かなりの戦費が調達できてしまっているのです。石油価格の乱高下、ドルの変動、ISと言われるグループが最初に始めたことで、石油価格の変動を使って戦費を調達しているのです。それが貯まっています。イスラムはシーア派とスンニ派の対立の中に、さらにアメリカも加わっています。

イランの核開発は、たいしたことはないのですが、進んでいることは進んでいます。イランは北朝鮮ともつながっているのです。その意味でアメリカとの対立は一層深まっています。

私は、中東が最も危険だと思っています。そうなる日本は石油も重要になってきて、ガスへのシフトも含めて、エネルギー問題に展開してくると思います。日本の近くは、やはり北です。北朝鮮は恐らくまた、韓国との間で戦闘が始まると思います。ただし、それは抑えきれぬ程度のものだと思います。

(Q2) 先生、講演ありがとうございました。私は元北方領土が住まいで、小学校2年生のときにこちらに引き揚げてきました。今の先生の講演を聞きまして、非常に心に残ることが多々ありました。私たちは、日本政府がもう少し強く北方領土返還を定義

付けてもらえないかと思っているわけですが、先生の見解はいかがですか。

(山田) 忘れかけていた北方領土問題が少し進み始めて、また止まっています。切り口を変えなくてはいけないと思っています。先ほど言った北極海航路の話と絡めて、北方の海、これはサンマの問題も含めて、本来の海の問題がなかなか進んでいません。

以前、上川さんという元法務大臣と話をしました。あの方は今、北方海域の委員会の委員長をしています。北方領土問題を北の海という切り口で、その拠点としての使い方ということで、目を向けていこうとしています。

とにかく、話題に乗せなくてははいけません。「おっぱい、おっぱい」と騒いだという話題になるようでは困ります。あれが国会議員の方々の認識の象徴だと思うのですが、それでは困ります。やはり国会の中でも、もっと議論していかなくてはいけないと思っています。

実は来週、参議院に呼ばれています。委員会で、この海域の重要性をもう一度話してくる予定になっています。少し止まりかねない状況を常に動かし、いろいろな切り口から、話を進めていかなければいけないと思っています。それほど時間は許されていないという認識で、少しでも声を大にする人間が動かなければいけないと思っています。

これだけしっかり県民会議をしていただいている都道府県は、あまり多くありません。もう一つは、行政と民間の方が一体となっているところも少ないので、本当に富山はありがたいと思っています。その意味でも、富山の方々の声が届くように、私もできるだけお手伝いしていきたいと考えています。ありがとうございます(拍手)。